

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <http://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/>

代表電話番号
**0225
(22)7711**
広報専用FAX
**0225
(22)7809**

人間文化学科1、2年次生20人

専大生田キャンパスで特別研修 勉学意欲を刺激

「初めて学ぶ分野で、視野が広がった」「専修大学の学生と交流できて楽しかった」。人間文化学科の1、2年次生20人が9月8日と9日の2日間、専修大学田キャンパス(神奈川県川崎市)で学んだ。専修大学文学部と人間文化学科の協力で実現した初の特別研修で、マスメディアや児童心理についての特別講義を受講。両学部の学生とグループ討論したり相撲部の稽古を見学して「ちゃんこ」を味わうなど、専修大学の伊勢原セミナーハウス(同伊勢原市)を足場に有意義な2泊3日を過ごした。

「社会を読む」と題して展開された文学部人文・ジャーナリズム学科の山田健太教授の特別講義は、各自が持ち寄った新聞の1面の比較からスタート。新聞、テレビ、書籍・雑誌などのマスメディアから多様な情報を入力しやすい日本の状況が説明され、それを支える制度として日本型の「表現の自由」に論が進んだ。

学生は表情がひととき真剣味を増したのには、ヘイトスピーチに話が及んだ時。戦前・戦中の言論弾圧への反省から、憲法は例外を設けず「表現の自由」を保障していることが取り締まりを難しくしているという解説に、「憲法との関わりを知り、今までの疑問が解きました」(佐藤ひかるさん)1年次・宮城県石巻市

「好文館高」という大学が自立的に。自分たちの関心事を述べ合い、有効な情報発信について探った専大生との意見交換会では、東日本大震災を風化させないための方策が話し合われた。武山海斗さん(2年次・宮城県石巻商業高)は「改めて震災の事を深く考える良い機会になった」と話し、震災の関連記事を見ながら石巻の地元紙を専大生に託していた。

9日には、人間文化学科の吉田弘道教授の特別講義「子どもの心の成長について」地域社会の役割」を受講。子どもの成長を果たす「地域」の力を学び、地元への思いを新たにしている場面も。専大の相撲道場では国技の伝統にふれ、ちゃんこ料理に舌鼓を打った。

人間文化学科主任の松崎俊之教授は「大いに刺激を受けたようで、勉学意欲の向上につながった」、遠藤郁子特任准教授は「若いから吸収も早い。この数日で随分しっかりとったように感じる」と学生の奮闘をたたえた。



実際の紙面を題材に山田教授が解説



専大相撲部員に挑戦

ツール・ド・東北2014 健脚発揮 坂田学長ら10人完走



坂田学長(左から5人目)ら本学の参加者

本学を発着点に、自転車で宮城県内の沿岸を駆け「ツール・ド・東北2014」(主催 河北新報社、ヤフー)が9月14日に開催された。全国から約2800人が参加した。2年連続で参加。本学からは坂田隆学長をはじめ学生、教職員、卒業生ら10人が出場し、完走を果たした。

被災地の今を見、東北の自然や旬の味覚にふれる復興支援イベントで、順位やタイムを競わないファンライド方式。今回は女川・雄勝フォンド(60キロ)から新設の気仙沼フォンド(220キロ)まで、全4コースを設定。キヤロライン・ケネディ駐日米大使が女川・雄勝

本学を完走するなど、盛り上がりを見せた。最長の気仙沼フォンドは、朝もやの立ち込める午前5時30分にスタートし、卒業生を含め3人が参加した。2年連続で参加した坂田学長は北上の共同利用事業を行う日本カーシェアリング協会の業務改善について提案をまとめ、9月1日に本学でプレゼンテーションを行った。

ITを活用した業務の効率化プランを提案するプロジェクトで、NTTデータ(本社・東京)と地元タ(本社・東京)と地元タのIT企業イメーシア・ソリューションの社員が協力。2、3年次生が3つのチームに分かれて同協会で開催された調査、浮かび上がった問題点を分析した。

関係者約30人が見守るなか、各チームは「業務のマニュアル化による作業負担」「車検業務のメ

カーシェアの業務改善提案 舛井ゼミ

「1人通知」「車両・利用者等の情報整理と管理システム」のデータベース化」などについて改善案を発表。同協会職員の審査で「情報整理とデータベース化」の提案が優秀賞に選ばれた。

舛井ゼミ

経営学部・舛井ゼミ(指導・舛井道晴准教授)の学生13人が、石巻市内の仮設住宅で自動車の共同利用事業を行う日本カーシェアリング協会の業務改善について提案をまとめ、9月1日に本学でプレゼンテーションを行った。

ITを活用した業務の効率化プランを提案するプロジェクトで、NTTデータ(本社・東京)と地元タ(本社・東京)と地元タのIT企業イメーシア・ソリューションの社員が協力。2、3年次生が3つのチームに分かれて同協会で開催された調査、浮かび上がった問題点を分析した。

関係者約30人が見守るなか、各チームは「業務のマニュアル化による作業負担」「車検業務のメ

阿部さんが優勝



阿部さんが優勝した。第65回仙台北弓道大会(9月7日、仙台市泉弓道場)の一般男子の部で阿部竜也さん(経営1・宮城県塩釜高)が優勝を飾った。

1人が4射的中数を競う個人戦で、本学弓道部から男子8人、女子3人が出場。阿部さんは勝つことばかりに集中せず、正射必中を心掛けて大会に挑みました。高校から弓道を行ってきたが、個人での入賞は初めてで、自信につながります」と喜びを語った。

一般女子の部では氏家萌さん(理工3・山形県寒河江高)が2位に入った。

阿部さん(前列左から3人目、氏家さん同4人目)ら多くの部員が入賞した

好記録で念願の初優勝 手作り自動車省燃費競技大会



軽快な走りを見せた「奥津男子」号

ガソリン1リットル当たりの走行距離255.95キロ。理工学部・山本憲一教授(指導・山本憲一教授)に所属する機械工学

科自動車工学コースの4年次生8人と3年次生1人、大学院生1人が「手作り自動車省燃費競技大会」(9月13日、仙台市)で念願の初優勝を果たした。

排気量50CCの手作り自動車を使用。1周6333メートルのコースを平均時速25キロ以上で20周し、ガソリンの消費量から燃費を算出する。「高校の部」「大学・高専の部」に県内外から計6チーム11台が出場。本学の「奥津男子号」は安定した滑らかな走り、好記録をマークした。

横地涼さん(4年次・宮城県南郷高)は「ドライバーの体形に合わせてフレームを改良したことが結果につながった」と感激の表情。仲間と肩を

西日本の5大学巡り 防災ワークショップ

経営学部
経山崎ゼミ

「100人いる避難所から脱却しよう」と内容を工夫。具体的な問いで対話を深めた。

ゼミ生は3班に分かれ、4、5日に神戸市、京都市、大阪市を、16日に愛媛県松山市を訪問。兵庫県立大学や龍谷大学、松山大学など計8大学の学生と机を囲んだ。冒頭の問いには「公正な抽選で決める」「子どもを優先する」などの意見が出て活発なやり取りになったという。例題のもとなっていたのは、山崎教授が責任者となって開講している「復興ボランティア学」の講演録。講師は石巻地域で復興支援に取り組んでいる団体や企業のリーダー。災害時の対応など示唆に富む内容となっている。

同様の試みを山崎教授がある大企業の新入社員研修で行い、手ごたえを確かめたという。計画だ。